

口頭発表 第2日

2月8日(金) 9:30 ~ 10:45

口頭発表の記録について

<口頭発表の録音について>

自己学習に使用する場合であっても、録音できません。自校の記録等として参加者が録音を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

<口頭発表の撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、撮影できません。自校の記録等として参加者が写真及びビデオの撮影を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

口頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 A会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

小学校 教科指導 授業改善

【文部科学省委託 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究】

深い学びにつなげるための指導の工夫と充実

大仙市立大曲小学校 教諭 田村佳久美

来年度の学力向上フォーラムに向けて、「学びを深める子どもの姿」の具現化を目指し、次の3点を重点に研究を進めてきた。

- ・深い学びにつなげるための話合い
発問の精選と問い返しにより、知識や技能・言葉をつなぐ。
- ・視点を明確にした振り返り
自己の変容を自覚させ、次の学びにつなげる。
- ・子どもの姿からの研究協議会
子どもの光る言葉や困り感から、成果と課題・改善策を検討する。

④ 10:15~10:45

中学校 教科指導 授業改善

【文部科学省委託 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究】

思考の活性化から深い学びへ

大仙市立大曲中学校 教諭 本道 法順

大曲中学校では、「社会との関わりをもって自ら学びを深める生徒の育成」を目指し、「思考の活性化」をキーワードに研究を進めてきた。「思考の活性化」「深い学び」それぞれの状態を生徒の姿で表し、それを教科ごとに「PADカード」としてまとめ、授業改善につながるようにしてきた。「PADカード」を使って授業を分析していく過程で、「深い学び」について特徴的なことや授業改善のポイントが明らかになってきた。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 B会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

小・中学校 地域に根ざしたキャリア教育
【文部科学省委託 小・中学校等における起業体験推進事業】

地域素材を活用したキャリア教育の推進
～小・中連携による「起業体験」の取組から～

鹿角市立花輪第二中学校 教諭 児玉 則幸
鹿角市立花輪北小学校 教諭 鈴木 信子
鹿角市立平元小学校 教諭 細田 昌浩

鹿角市花輪の柴平地区は花輪第二中学校、花輪北小、平元小の3校の学区である。これまでは各校独自にふるさと教育やキャリア教育に取り組んできたが、今年度は3校で連携して模擬会社を組織し、特産品を活用した商品開発や販売活動を行ったり、外部人材を活用して企業についての学習を行ったりした。この活動により、児童生徒の自己肯定感や地域への関心の増加、普段の学習に対する主体性の向上などに結び付けることができた。

④ 10:15~10:45

中学校 地域に根ざしたキャリア教育
【日教弘秋田支部募集教育研究論文(入賞論文)】

地域の素材、人財、施設、共育力、事業を積極的に活用したふるさと教育の推進
～小・中連携校とコミュニティ・スクールの充実を「強み」として～

由利本荘市立鳥海中学校 教頭 須田 昌樹

小・中連携とコミュニティ・スクールの充実を課題解決の強みとして、少ない生徒数でも「素財」「人財」「施設」「共育力」「事業」の積極的な活用で、「ふるさとのよさの再発見」「ふるさとへの愛着心の醸成」「ふるさとに生きる意欲の喚起」が可能となり、「ふるさと教育」の推進が図られるだろうと仮説を立て、質問紙で検証した結果、「地域や社会」に関する設問への肯定的回答が向上し、ふるさと教育のねらいに迫っていることが確認できた。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 C会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

小・中学校 学校運営
【国立教育政策研究所委嘱 魅力ある学校づくり調査研究事業】

児童生徒からのメッセージを生かして進める魅力ある学校づくり
～新たな不登校を生まないために～

潟上市教育委員会学校教育課
指導主事 佐々木 栄
潟上市立天王南中学校 教諭 本間 秀徳
潟上市立出戸小学校 教諭 高井美佐子

これまで不登校対策といえば、不登校状態にある児童生徒への支援が中心になっていた。つまり、不登校に対する対応に重点が置かれていた。本事業は、意識調査(児童生徒からのメッセージ)の結果から、全教職員で全ての児童生徒を対象とした対策を練り、日々の授業や学校生活の中で、「学校に来ることが楽しい」と感じられるような「魅力ある学校づくり」を推進することで、不登校の未然防止を図ることをねらいとしている。

④ 10:15~10:45

小・中学校 教科指導 授業改善

学びを深めるための話し合い活動の在り方について
～能代市中堅教員研修会の研修成果の発表～

能代市教育委員会 指導主事 大高 智久
能代市立浅内小学校 教諭 伊藤 一永
能代市立向能代小学校 教諭 庄司 俊哉
能代市立第五小学校 教諭 佐々木 恵

能代市では教員の授業力向上を目指し、平成26年度から中堅教員研修会を行っている。今年度は「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を図るため、この研修テーマ(主題)を設定した。市内小・中学校の中堅教員12名が三つのグループに分かれ、お互いの授業を検証しながら、学びを深めるための話し合い活動はどうあればよいか、具体的な手立てとその効果について話し合いを積み重ねてきた。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 D会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

中学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

世代や教科の壁を越えて共に伸びる校内研修
の在り方
~中学校の授業づくりにおける共同研究体制
の構築に向けて~

能代市立東雲中学校 教頭 近藤 明子

若手教員の授業力向上のためには、若手の育成に特化するよりOJTを生かしながら各世代が共に伸びるような校内研修が効果的と考えた。そこで授業研究会の事前研修において、従来の「授業者と教科部による指導案検討中心型」から、教材研究の段階から異世代・異教科チームで臨む「共同研究型」への変革を試みた。この実践で、授業づくりに対する学びや気付きを得る、授業改善について積極的に話し合う雰囲気が高まるなどの成果が見られた。

④ 10:15~10:45

中学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

学校・家庭・地域の三者連携のための目標設定の方策
~三者の現状把握に基づく課題の明確化をと
おして~

秋田市立下北手中学校 教頭 石塚 昭仁

コミュニティ・スクールをはじめとした学校・家庭・地域の三者連携による「生きる力」の育成のためには、三者による「目標やビジョンの共有」が不可欠であり、その前提として「的確な実態把握」に基づく「課題の共有」が欠かせない。本研究は、共有すべき目標の設定に向けた課題の洗い出しのために、生徒、保護者、地域、教師それぞれの実態把握の方法について検討し、その妥当性について検証したものである。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 E会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充
実事業]

自分の力を発揮する姿を育てる授業づくり
~「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏
まえて~

県立比内支援学校たかのす校 教諭 渡部 陽子

本校では、「街は大きな教室だ」を合い言葉に、「絆プロジェクト(地域学習)」を教育課程の柱に位置付けて展開している。本研究では自分の力を発揮する姿を育てるために、絆プロジェクトのねらいや育てたい資質・能力を検討し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善に取り組んだ。「たかのす校スタンダード~授業づくりの基礎・基本~」を活用した、チームで行う教育課程編成や授業づくり・授業改善の取組について提案する。

④ 10:15~10:45

特別支援学校 特別支援教育 教育課程
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充
実事業]

地域の特色を生かした教育課程の編成
~観光地の豊富な資源を活用し、社会参加の
力を育む~

県立大曲支援学校せんぼく校 教諭 小野寺珠貴

開校3年目の本校では、児童生徒の社会参加の力を育むことを目指し、観光地の豊富な資源を活用した教育課程の編成とそれに基づいた授業づくりを行ってきた。地域資源活用の学習活動を中心に据えた教育課程の整理と、学部ごとに設定したキーワードと学部内での系統性を重視した指導内容や指導計画の検討を行い、授業実践を進めた。本発表では、各学部の実践の紹介、研究の成果や課題等について報告する。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 F会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

高等学校 食に関する指導

夜間定時制課程の高校における食に関する指導について
~学校給食等を活用した取組~

県立秋田明德館高等学校定時制課程
栄養教諭 藤原 美里

本校では、平成29年度から「心身共に健康で心豊かに生きる生徒の育成」のため、教育活動全体で食に関する指導を実践してきた。具体的には、保健体育科における朝食の大切さ、家庭科における和食の配膳・食事のマナー等の指導を通して、生徒の食の自己管理能力を高めるよう指導した。食に関する指導の実際と、生徒の食への興味・関心及び食行動の変容、夜間学校給食を活用した食に関する指導の教育的効果について述べる。

④ 10:15~10:45

小・中学校 障がい者理解教育
[文部科学省委託 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業]
大仙市小・中学校における心のバリアフリー(障がい者理解)学習の推進について
~平成29年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」平成30年度「地域人権啓発活動活性化事業(人権ユニバーサル事業)」の成果と課題~

大仙市教育委員会教育指導部教育指導課
主幹兼指導主事 櫻田 武

大曲西中学校区は、これまでも大曲支援学校との交流及び共同学習を行っている。しかし、これまでの成果や課題については整理されていなかった。「障がい者理解教育」を本中学校区の特色ある活動としていくため、平成29年度は、これまでの取組やその成果や課題を整理し、それを生かした「障がい者理解教育全体計画」を作成した。これまでの本中学校区の取組と平成30年度の取組から、今後の障がい者理解教育について提案する。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 G会場

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

幼・保・認定こども園等 就学前教育

子どものよりどころである保育園を目指して
~配慮を要する子どものよりよい育ちを探って~

(公財)鹿角市子ども未来事業団 尾去沢保育園
保育士 矢澤 美幸
保育士 宮本 琴美

わが園では、ADHDや聴覚障害をもつ子など配慮を要する子が複数在籍している。一人一人の特性に応じて、統一した支援ができるよう、会議の持ち方や療育訓練の活用、保護者面談の持ち方を重点に見直しを図り、工夫しながら取り組んできた。子どもへの理解が深まると同時に、改めて職員間での共通理解や保護者と同じ気持ちで子どもに向かうことの大切さを感じ、職員の意識の向上にもつながった。

④ 10:15~10:45

幼・保・認定こども園等 就学前教育

自己発揮しながら、互いに認め合える子どもを育む
~人・物などの環境と出会い、それらとのかかわりを通して~

大潟村立大潟こども園 主任保育教諭 田中 友美
主任保育教諭 佐藤 純子

今年度、幼保連携型認定こども園としてスタートし、本園の特性を生かした教育・保育を行っている。研究を進めるに当たり、カリキュラム・マネジメントの適切な実施についても検証しながら、写真を取り入れたカンファレンスや日々の保育の記録をもとにした指導計画の改善、家庭や地域と共に子どもの育ちを支えるための取組を考え実践してきた。そのことが、子どもの姿の変容や全職員の教育・保育の質の向上、カリキュラム・マネジメントの確立などにつながった。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 H会場

<提案のポイント>

本校は今年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」の指定を受けた。「ディベートを取り入れた言語活動による指導と評価」を教科研究主題とし、①ディベートの要素を取り入れた言語活動による授業改善 ②CAN-DO リスト形式の学習到達目標の活用と評価の工夫 ③生徒の英語による言語活動時間の増加を目的に、年2回の授業研究会を行った。今年度の取組状況と、今後2年間の見通しと課題について報告する。

③ 9:30~10:00

高等学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

ディベートを取り入れた言語活動
～発信型英語運用能力育成を目指した北鷹スタイルの確立を目指して～

県立秋田北鷹高等学校 教諭 山條 陽子
教諭 伊藤 健吾

④ 10:15~10:45

高等学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

英語授業におけるディベートの活用と評価の工夫
～表現力と思考力の向上を目指して～

県立本荘高等学校 教諭 鈴木 瑞穂

本校の1年生におけるディベートの要素を取り入れた授業の展開を提案する。小学校での外国語活動と中学校での英語の授業を通して、英語を話すことに対して抵抗が少ない生徒たちである。自分のことを話す活動から意見を表現する活動への移行、そして賛否が分かれる論題に対して、自分の意見とは異なった立場で、理由と共に反論できるための段階を踏んだ活動を紹介したい。特に、ディベートの醍醐味である反論部分の展開例を示す。

□頭発表

2月8日(金) 9:30~10:45 I会場

<提案のポイント>

外国語活動の教科化を前に、本校では、児童の発話量を増やすことや、コミュニケーション力を付けることを目指してきた。そのために、まず、教師の英語力向上のための研修会を行った。また、授業研究会で、児童の意欲を高め、必要感があり自然な発話を促す言語活動を位置付けた単元づくりを試みた。オールイングリッシュを意識した授業を積み重ねた結果、意識調査で、積極的に話したり聞いたりしているという児童の割合が高くなった。

③ 9:30~10:00

小学校 外国語・外国語活動
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

外国語活動における児童の主体性を引き出す
単元構成の工夫と言語活動の設定
～教師と児童の英語力向上を目指して～

三種町立琴丘小学校 教諭 島田 幸子
教諭 大山 祐子

④ 10:15~10:45

中学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

コミュニケーションの目的・場面・状況等を理解しながら、自分が伝えたいことを表現する力を育てる指導
～主体的に学び、確かな学力の向上を目指す生徒の育成～

三種町立琴丘中学校 教諭 水沢 浩子
教諭 市川 聖子

「拠点校・協力校英語授業改善事業」の指定を受け、協力校との連携を生かしながら英語授業の改善の在り方を探ってきた。学習指導要領の改訂を受け、英語科では①コミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する ②コミュニケーションの見通しを立てる ③対話的な学びを重視した言語活動を行う ④言語面・内容面で振り返り、学んだことの意味付けを行うといった四つの学習過程を軸に授業実践を行い、生徒の表現力を高めてきた。そうした活動の中で、相手とのやりとりを楽しむ姿勢が見られるようになった。

□頭発表

2月8日（金）9:30～10:45 J会場

<提案のポイント>

③ 9:30～10:00

高等学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

高等学校の協働体制の現状と「チーム学校」実現に向けての課題
～A高等学校の教員意識調査から～

県教育庁高校教育課 管理主事 牛丸 靖浩

中教審は、平成27年の答申で「チーム学校」を今後のあるべき姿とした。本県の小中学校は、質の高い共同研究によって探究型授業を展開し、全国から高い評価を得ている。これに対し、高等学校では、教科の枠を超える実践や研究はあまり見られない。むしろ、授業以外も含め、「組織力」よりも「個人技」を重視する傾向さえ見られる。意識調査の分析から、高等学校の協働体制の現状を把握し、チーム化に向けての課題を考察する。

④ 10:15～10:45

高等学校 産業教育
[文部科学省指定 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業]

DAINOプロジェクトによる農業と地域産業の創造
～実践的スキル・技術・経営力を身に付けた地域創生を担う人材育成プログラムの創造～

県立大曲農業高等学校 教諭 佐々木孝之

将来の地域農業を見据えた農業教育の改善を一層推進するために、農業の付加価値を生み出すサービスとブランディングを創り出す人材や地域の産業を結び付け6次産業を生み出す人材の育成、また、豊かな農山村資源をグリーンツーリズムなどと結び付け、その活性化のために活躍できる人材の育成に向けて、四つ（アグリビジネス学習・イノベーション学習・高スキルアップ学習・組織的マネジメント学習）の人材育成プログラムの研究開発に取り組んだ。